

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
国語総合(現代文)	1年	2単位	国語総合 現代文編 (東京書籍)	国語総合学習課題ノート 現代文編 (東京書籍)など
科目の概要と目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。			
単元	学習内容	到達度目標		
評論	「技術が道徳を代行するとき」 「水の東西」	<ul style="list-style-type: none"> ・論の展開に注意して評論を読み、技術の発達と道徳的な判断力の関係について理解する。 ・「水」をめぐる日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。 		
小説	「羅生門」	<ul style="list-style-type: none"> ・極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題について考える。 		
評論	「顔という現象」	<ul style="list-style-type: none"> ・自己と他者の関係について、顔を通じて書かれた評論を、叙述に即して的確に読み取る。 		
随想	「少女たちのひろしま」	<ul style="list-style-type: none"> ・戦時下に生きた人々の日常と悲劇に思いをめぐらし、時代や社会について考える態度を養う。 		
小説	「鏡」	<ul style="list-style-type: none"> ・自分という存在について、特有の語り口で書かれた小説を読み、「鏡」が持つ意味について考える。 		
評論	「広告の形而上学」 「映像文化の変貌」	<ul style="list-style-type: none"> ・比喩に注意して、広告の奇妙さについて書かれた評論を読み、現代社会の特質について考える。 ・複製技術が発達した現代の映像文化について書かれた評論を、叙述に即して的確に読み取る。 		
評論	「生物の多様性とは何か」 「暇と退屈の倫理学」	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性について書かれた評論を読み、ヒトが自ら守るべき「分際」について考えを深める。 ・暇を得た社会の中で、個人はどう生きればよいかについて、引用と主張の関係に注意して読み取る。 		
詩歌	・詩 ・短歌 ・俳句	<ul style="list-style-type: none"> ・日本独自の短詩型文学について、歴史と伝統を学びながら、鑑賞力を養う。また、創作を行う。 ・詩の言葉の持つイメージ喚起力に留意しつつ韻文の読解力を養う。 		

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
国語・国語総合(古典)	1	3	国語総合 古典遍 (東京書籍)	体系古典文法(数研出版) 四訂版漢文必携(桐原書店) 他
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典の豊かな世界に触れることで、言語や文化に対する興味関心を培いつつ、自ら進んで学習する態度を養う。 ・ 古典の的確な読解に必要な、文法や語句・句法などに関心を持ち、その習得に努力する。 			
単元	学習内容		到達度目標	
古文入門 物語 [古文編]	「今昔物語集」他 「伊勢物語」 ・ 動詞・形容詞 ・ 形容動詞		・ 入門期の易しい古文に触れることで、古典学習への興味を持つ。 ・ 歴史的仮名遣いや用言の活用など、古文読解の基礎的な知識を習得する。	
漢文入門 格言故事成語 [漢文編]	・ 訓読に親しむ ・ 再読文字・助字など 「助長」「推敲」 「断腸」		・ 漢文訓読のルールに習熟し、訓点に従って正しい書き下し文を書くことができる。 ・ 故事成語についての易しい漢文を読み、漢文世界への興味を持つ。	
随筆 日記 [古文編]	「徒然草」 「土佐日記」 ・ 助動詞		・ 兼好の思想や貫之の旅の行程に触れて、古典世界と現代との相違や類似を考える。 ・ 助動詞についてその用法を学び、細部まで口語訳することの大切さを知る。	
寓話 唐詩 史話 [漢文編]	「朝三暮四」他 「春暁」他 「管鮑之交」他		・ 句法や語句に関する知識を理解し漢文を読解し、中国の歴史や人間の姿に興味を持つ。 ・ 漢詩の形式や規則について理解し、その豊かで壮大な世界に親しむ。	
軍記 和歌 [古文編]	「平家物語」 「万葉集」他 ・ 助詞・敬語		・ 軍記を通じて、登場人物の心情と行動を読み取り、当時の人の人生観を味わう。 ・ 三大歌集の特色、和歌の修辞を習得し、歌に込められた心情を読み味わう。 ・ 助詞についての理解と知識を深めるとともに、敬語表現の仕組みを知る。	
思想 [漢文編]	「論語」 「孟子」		・ 古代中国の思想について理解を深め、ものの見方、考え方を豊かにする。	

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
地理歴史 世界史 A	1年	2単位	明解世界史 A (帝国書院)	明解世界史 A ノート(帝国書院) 世界史のミュージアム(東京法令出版)
科目の概要と目標	<p>現代につながる過去の歴史を、特に近現代を中心として学ぶことにより、現代世界の特質を理解し、直面する課題に対する公正な判断力を養う。</p> <p>また、様々な地域の特質と歴史、相互の交渉の過程を学ぶことにより、異なる文化を理解し、共に生きる国際社会の一員としての自覚と資質を身につける。</p>			
単元	学習内容	到達度目標		
1部 世界の一体化と日本 1章 前近代の諸文明	序 人類の始まり 1 東アジアの文明 2 南アジアの文明 3 東南アジアの文明 4 西アジア・北アフリカの文明 5 ヨーロッパの文明 6 南北アメリカの文明 7 ユーラシアの交流圏	<ul style="list-style-type: none"> ・世界史を学ぶ意義について考えるとともに、人類の出現と生活の変化、文明の成立などについて概観する。 ・東アジア・内陸アジアの風土と諸民族、漢字文化、儒教、中国を中心とする国際体制などについて概観し、日本を含む東アジア世界の特質を把握する。 ・南アジア・東南アジアの風土と諸民族、仏教の成立、ヒンドゥー教とカースト制度、イスラームの影響などについて概観し、特質を把握する。 ・西アジア・北アフリカの風土と諸民族、オリエント文明、イスラームの成立と拡大などについて概観し、特質を把握する。 ・ヨーロッパの風土と諸民族、ギリシア・ローマ文明の伝統、キリスト教の普及、封建社会の成立などについて概観し、特質を把握する。 ・南北アメリカの風土と諸民族について概観し、特質を把握する。 ・ユーラシアの諸地域を結ぶ海と陸のネットワークの成長、モンゴル帝国の拡大によるユーラシアの一体化を把握する。 		
2章 一体化に向かう世界	1 繁栄するアジア 2 大航海時代と新たな国家形成	<ul style="list-style-type: none"> ・アジアの諸国家の政治や社会の展開、経済の繁栄を概観する。 ・大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアとの接触・交流や、世界の一体化に向かう動きを理解する。また、ヨーロッパの主権国家体制の成立について理解する。 		
3章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺	1 ヨーロッパとアメリカの諸革命 2 自由主義・ナショナリズムの進展 3 アジア諸国の動揺 4 東アジアの大変動	<ul style="list-style-type: none"> ・産業革命、アメリカ独立革命、フランス革命、自由主義と国民主義の進展、拡大する貿易活動について理解し、欧米における資本主義の確立と国民形成の過程を把握する。 ・ヨーロッパの進出におけるアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、その中で日本の対応を把握し、19世紀の世界の一体化とその特質を理解する。 		
2部 地球社会徒日本 1章 現代社会の芽生えと世界大戦	1 現代につながる社会の形成 2 第一次世界大戦がもたらしたもの 3 民族自決を求めて 4 経済危機から第二次世界大戦へ	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦の原因と性格、戦争がもたらした世界の変化を理解するとともに、ロシアで起こった史上初の社会主義革命を通して、戦争と革命が20世紀の大変動の起点となったことを把握する。 ・第二次世界大戦の原因と性格、戦争の経過の中での日本の動向と世界の動きを把握し、その甚大な被害から平和の意義について考察する。 		
2章 冷戦から地球社会へ	1 冷たい戦争の時代 2 冷戦終結への道のり 3 地球社会への歩み 4 持続可能な社会をめざして	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジアやアフリカの民族運動と独立、冷戦終結などの世界の動向を把握し、これからの国際社会における日本の役割について考察する。 ・地球規模の諸課題の出現について理解し、これからの“ともに生きる世界”について考察するなかで、国際的な交流と協調の必要性に気付くとともに、自らの課題であることを自覚する。 		

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
地理歴史 日本史B	2・3年	6/7 単位	詳説日本史B(3年) 詳説日本史B改訂版(2年) (山川出版社)	最新日本史図表新版二訂(3年) 最新日本史図表(2年) (第一学習社)
科目の概要と目標	わが国の歴史の展開を諸史料に基づき地位的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察させ、わが国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的考察力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
単元	学習内容		到達度目標	
第1章 日本文化のあけぼの	1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 3 古墳と大和政権		・石器や土器などの考古資料を自然環境や大陸との影響に着目し、各時代の特徴を理解する。 ・小国の形成から大和政権の成立を文献などに基づき、大陸との関係などから多角的に考察する。	
第2章 律令国家の形成	1 飛鳥の朝廷 2 律令国家への道 3 平城京の時代 4 天平文化 5 平安王朝の形成		・律令体制の導入から成立の過程を大陸との関係や政治動向に着目して理解する。 ・大陸との交流を踏まえ、政権の確立や文化の成立を考察する。 ・文献資料を基に藤原氏を中核とする政治抗争の進展と土地制度の変容を関連づけて考察する。	
第3章 貴族政治と国風文化	1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士		・藤原北家の摂関政治の成立過程をその影響を考察する。 ・大陸情勢の変化が日本の文化に与えた影響に着目し、貴族の生活や文化を理解する。 ・地方支配の変化などから中世の萌芽を見出す事ができる。	
第4章 中世社会の成立	1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立 3 武士の社会 4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化		・荘園公領制について理解する。 ・平氏政権の権力確立方法の特性から武家政権の成立への過渡期であることを理解する。 ・朝幕二元支配体制から武家政権への変容を理解する。 ・鎌倉仏教の社会的・思想的意義、影響について理解し、文学や美術への影響を考察する。	
第5章 武家社会の成長	1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場		・鎌倉幕府の滅亡から南北朝の動乱を経て守護大名の台頭が地方勢力の確立につながっていくことを理解する。 ・流通経済の進展や農商業の発達から庶民の台頭を考察する。 ・室町時代の文化を通じて武家・公家文化の融合や、禅の文化への影響、また、この時代の文化が現在の日本文化につながっていることを理解する。	
第6章 幕藩体制の確立	1 織豊政権 2 桃山文化 3 幕藩体制の成立 4 幕藩社会の構造		・ヨーロッパ世界と接触とその影響について考察する。 ・織豊政権の政策が幕藩体制の基盤になることを理解する。 ・初期外交から鎖国までの過程を貿易統制の側面と東アジアの動向と関連させて考察する。	

<p>第7章 幕藩体制の展開</p>	<p>1 幕政の安定 2 経済の発展 3 元禄文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幕藩体制の安定過程を考察する。 ・幕藩体制安定期の諸産業の発展について、相互の関係や社会的役割を考察する。 ・経済の発展と関連して町人文化が形成されたことを町人の台頭と併せて理解する。
<p>第8章 幕藩体制の動揺</p>	<p>1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市や農村の変容により幕藩体制が動揺、幕府や諸藩が行った諸改革の意義とその影響を理解する。 ・列強の接近など国際情勢の変化やそれに対する幕府の対応から幕府の衰退を見ることが出来る。 ・幕藩体制への批判的思想の登場、出版文化や庶民教育による文化の展開について理解する。
<p>第9章 近代国家の成立</p>	<p>1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵 3 立憲国家の成立と日清戦争 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発展 6 近代文化の発達</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会に組み込まれることで起こる変化に着目して、幕末から明治までの政局の変化を考察する。 ・明治政府の制度改革や富国強兵策などに着目し、国家的統一過程、さらに立憲国家の成立の過程を考察する。 ・列強諸国との関係の変化が条約改正交渉に与えた影響や、日清・日露戦争を通じて日本国内及び近隣諸国に与えた影響を理解する。 ・日本の産業革命による資本主義体制の基礎の確立と、近代産業の発展に伴う社会問題の発生について考察する。
<p>第10章 二つの世界大戦とアジア</p>	<p>1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民生活の変容と大衆文化 4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 6 第二次世界大戦</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・政党政治の発展や中国進出の状況を踏まえ、第一次大戦前後の政治・外交の動向や推移を考察する。 ・さまざまな社会運動が民主主義的な傾向の中で展開したことを理解する。 ・国際協調体制の進展から世界情勢の変化に伴う国際的孤立の過程を国内外の政治状況や経済動向などを踏まえながら考察する。 ・軍部の政治的進出の過程を理解する。
<p>第11章 占領下の日本</p>	<p>1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対日占領政策に伴う戦後の諸改革について、戦後の世界秩序を踏まえて考察する。 ・東西冷戦が対日占領政策にもたらした影響を日米関係や近隣諸国との関係から理解する。
<p>第12章 高度成長の時代</p>	<p>1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・独立後の国内政治を55年体制の成立・保守安定政権の流れで理解する。 ・独立回復後の近隣諸国との外交関係を考察する。 ・特需景気以降の高度経済成長について、経済の国際化・国内の技術革新の側面に着目して考察する。
<p>第13章 激動する世界と日本</p>	<p>1 経済大国への道 2 冷戦終結と日本社会の動揺</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・石油危機以降の世界の動きと、日本の経済動向について理解する。 ・冷戦終結後の日本の経済動向、国際社会との関連について考察する。

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
地理歴史 地理 B	2 年	2・3 単位	新詳地理 B (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)	新詳地理資料 COMPLETE2017 (帝国書院) 地理資料 2017 (とうほう) 地理統計 2017 年度 (帝国書院) 新地理の研究 (啓隆社) 地理用語集 (山川出版)
科目の概要と目標	現代世界の地理的事象を系統的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。			
単 元	学習内容	到達度目標		
第 部 さまざまな地図・地理 的技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図の発達 ・ 地図の種類とその利用 ・ 地理情報の地図化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界観の変化とともに認識される地域が広がり、地図も変化してきたことを理解する。 ・ 立体である地球を平面に表した場合、歪みが生じるので用途に合わせた地図を用いることができる。 ・ 科学技術の発達とともに新しい地図が用いられるようになってきたことが理解する。 ・ 地形図の基本的な読図を理解する。 		
第 部 現代世界の系統地理的 考察 【自然：地形】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球規模の大地形 ・ 小地形 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレートテクトニクスにより、世界の大地形がどのように形成されたか理解する。 ・ 安定陸塊・古期造山帯・新期造山帯の特徴および分布を理解する。 ・ 平野の成因と特色を理解し、人間生活との関係を理解する。 ・ 海岸地形などの小地形の成因と分布について理解する。 		
第 部 【自然：気候】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気候の成り立ち ・ 世界の気候区分 ・ 日本の自然の特徴 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気候要素（気温・降水・風など）と大気の大循環を理解する。 ・ 世界の気候区を区分し、その特徴を理解する。また、農業をはじめとする人々の暮らしとの関係を考察する。 ・ 日本の地形および気候の特徴を理解し、災害や防災への関心を高める。 		
第 部 【産業：農林水産業】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業 ・ 林業 ・ 水産業 ・ 食料問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の農業地域を区分し、それぞれの形態や分布の特徴について理解する。 ・ グローバル化が進む中での、世界及び日本の農業の課題について考察する。 ・ 世界の森林の分布とその利用について理解する。 ・ 世界および日本の農業の課題について考察する。 		
第 部 【産業：工業】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工業の発達と立地 ・ 世界の工業地域 ・ 日本の工業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工業の発達、立地について理解し、その変化について考察する。 ・ 世界の工業地域の特徴とその変容について理解する。 ・ 日本の工業地域の特徴とその変容について理解する。 		
第 部 【産業：第 3 次産業】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消費 ・ 余暇・観光 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商業の立地とその形態の変化について理解する。 ・ 余暇活動と多様化する観光について理解する。 ・ 日本の観光産業について理解する。 		
第 部 【産業：交通・通信・ 貿易】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の交通網 ・ 情報と通信 ・ 貿易 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通機関（航空・鉄道・自動車・水上）の種類と特性について理解する。 ・ 情報の発達について理解する。 ・ 国際分業の発達について理解するとともに貿易の自由化について考察する。 		

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
地理歴史 地理 B	3年	3・4 単位	新詳地理 B (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)	新詳地理資料 COMPLETE2016 (帝国書院) 地理資料 2016 (とうほう) データブックオブザワールド (二宮書店) 新地理の研究 (啓隆社) 地理用語集 (山川出版)
科目の概要と目標	現代世界の地理的事象を系統的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。			
単 元	学習内容	到達度目標		
第 部 現代世界の系統地理的考察 【人口、都市村落】	<ul style="list-style-type: none"> ・人口の現状と人口問題 ・村落と都市 ・都市問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界や日本の人口の現状を知り、先進国と途上国での問題点を考える。 ・現在の集落がどのように立地し、発展してきたかその条件について理解する。 ・世界の都市・居住問題について理解する 		
第 部 【生活文化、民族宗教】	<ul style="list-style-type: none"> ・生活文化 ・民族と宗教 ・民族、領土問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の衣食住の地域での違いを理解する。 ・民族問題を世界的視野をもち追求し、その解決にならなければならないのかを考える。 		
第 部 現代世界の地誌的考察	<ul style="list-style-type: none"> ・地域区分 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域区分によって他地域との差異を考え、地域のつながり等が理解しやすくなることを知る。 		
第 部 現代世界の地誌的考察 【地域区分】	東アジア 東南アジア 南アジア 西・中央アジア アフリカ ヨーロッパ ロシア アングロアメリカ ラテンアメリカ オセアニア	<ul style="list-style-type: none"> ・国家規模の地域を地誌的にとらえる視点を理解する ・それぞれの地域の自然環境や文化等を知り、他地域との比較でその地域の特徴を深く理解する 		
第 部 前代世界の地誌的考察 【現代世界と日本】	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界と日本 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の日本を知り課題や将来のありかたを展望する。 		

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材（副教材）
公民・現代社会	1年	2	高校現代社会新訂版（実教出版）	新編テーマ別資料現代社会2017（東京法令出版） 高校現代社会新訂版演習ノート
科目の概要と目標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深め、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。			
単元	学習内容	到達度目標		
第1編 現代社会の諸課題	地球環境を考える ・地球環境問題 ・資源・エネルギー・人口問題 科学技術の発達と生命 ・生命科学の発展と倫理 ・高度情報化社会	地球温暖化、オゾン層の破壊等環境問題の特質と解決に向けた取り組みが理解できる。 資源・エネルギー問題の実態と解決への取り組み、また消費生活のあり方を判断できる。 科学技術の発達の実態と生命・情報倫理の在り方について考察することができる。		
第2編（倫理） 現代社会と人間としてのあり方 生き方	青年期と自己形成 ・生涯における青年期の意義 ・青年期と自己形成の課題 他者と共に生きる倫理 ・西洋の思想 ・宗教 ・日本の伝統思想	青年であること、社会とのつながり、生きがいと進路の創造について考察することができる。 哲学、宗教、近代科学の考え方、人間の尊厳日本人のものの考え方、外来文化の受容と日本の伝統思想について自己の生き方と関連づけて理解できる。		
第2編（政治） 現代の民主政治と日本国憲法	現代の国家と民主政治 ・人権保障の発展と現代社会 ・国民主権と民主政治の発展 日本国憲法と国民生活 ・日本国憲法の成立 ・平和主義と日本の安全 ・基本的人権の保障 ・人権の広がり ・政治機構と国民生活 ・人権保障と裁判所 ・地方自治 ・選挙と政党 ・政治参加と世論	民主政治の原理・しくみ、世界のおもな政治体制について理解できる。 日本国憲法と三つの原理、基本的人権の保障、国権の最高機関である国会と政党、内閣と行政、裁判所と法の支配について理解できる。また、世論と政治参加、地方自治と地域社会、平和主義と安全保障、民主社会の倫理と課題についても日本国民としての考察することができる。		
第2編（経済） 現代の経済社会と国民生活	現代の経済社会と政府の役割 ・経済社会の変容 ・市場のしくみと現代の企業 ・経済成長と景気変動 ・金融機関の動き ・政府の役割と財政・租税 経済活動のあり方と国民福祉 ・日本経済のあゆみ ・中小企業の農業、消費者問題 ・公害の防止と環境保全 ・労働問題と社会保障	技術革新と産業社会の変化、現代の企業、市場経済のしくみ、国民経済の活動水準について理解できる。 市場と政府財政と財政制度、金融の役割について理解できる。 変化する日本経済をとらえ、高度経済成長と産業構造の転換、経済のバブル化とその崩壊、日本の財政問題、金融の自由化と国際化、中小企業と農業の状況について理解できる。		
第2編（政治・経済） 国際社会と人類の課題	国際政治の動向 ・国際社会における政治と法 ・国家安全保障と国際連合 ・冷戦期の脅威と冷戦後の脅威 ・軍備競争と軍備縮小 ・異なる人種・民族との共存 ・国際社旗と日本 国際経済の動向 ・国際経済のしくみ ・国際経済体制の変化 ・金融のグローバル化と金融危機 ・地域経済統合と新興国	国際社会の成り立ち、国際紛争を避けるしくみ、国際連合の現状と課題、東西対立とその後の世界などについて理解し、国際社会のかかえる課題として、核兵器と軍縮、環境・人口・食料問題、民族問題と紛争、国際社会と人権、地球人としての日本の役割について考察することができる。 企業活動のグローバル化、国際経済のしくみ、戦後国際経済の枠組みとその変化、先進国間の対立と協調の時代、グローバル化する国際経済について理解することができる。		

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
数 学 数学	1 普通科	3	高等学校数学 (数研出版)	サクシード数学 + A (数研出版) フォーカスゴールド数学 + A (啓林館)
科目の概要と目標	方程式と不等式、2次関数及び図形と計量について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。			
単元	学習内容	到達度目標		
第1章 数と式 式の計算	<ul style="list-style-type: none"> ・整式の加法と減法 ・整式の乗法 ・因数分解 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの文字について式を整理することができる。 ・文字におき換えて展開公式が利用できる。 ・文字におき換えて因数分解の公式が利用できる。 		
実数	<ul style="list-style-type: none"> ・実数 ・根号を含む式の計算 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学んできた数について整理して体系的に把握できる。 ・平方根の意味を理解し、場合に分けて平方根をはずすことができる。また、分母の有理化の計算や2重根号をはずすことができる。 		
1次不等式	<ul style="list-style-type: none"> ・不等式の性質 ・一次不等式 ・絶対値を含む方程式・不等式 	<ul style="list-style-type: none"> ・不等号の意味や性質を理解できる。 ・1次不等式を解ける。 ・絶対値の意味を理解し、場合に分けて表せる。 		
第2章 集合と命題	<ul style="list-style-type: none"> ・集合 ・命題と条件 ・命題とその逆・対偶・裏 ・命題と証明 	<ul style="list-style-type: none"> ・集合に関する記号の意味を理解し、適切に使うことができる。 ・命題と条件について学び、事柄の真偽を論理的に考えられるようになる。 ・命題の逆・対偶・裏について理解する。 ・対偶を利用した証明や背理法による証明方法を学び、その有意性を理解する。 		
第3章 2次関数 2次関数とグラフ	<ul style="list-style-type: none"> ・関数とグラフ ・2次関数のグラフ 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数の概念や、定義域や値域、座標平面などの用語を理解する。1次関数のグラフが書ける。 ・2次関数の頂点や軸を求めることができる。また平行移動の考えを使って2次関数のグラフが書ける。 		
2次関数の値の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・2次関数の最大・最小 ・2次関数の決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・定義域や軸に文字を含む2次関数の最大最小を、場合分けして求めることができる。 ・与えられた条件から、その2次関数を定められる。 		
2次方程式と2次不等式	<ul style="list-style-type: none"> ・2次方程式 ・2次関数のグラフとx軸の位置関係 ・2次不等式 	<ul style="list-style-type: none"> ・因数分解や解の公式を使って、2次方程式を解くことができる。判別式を使って重解や実数解を持つ条件が表せる。 ・2次関数のグラフを利用して、解の存在範囲に従う条件を求めることができる。 ・2次関数のグラフを利用して2次不等式が解ける。 		
第4章 図形と計量 三角比	<ul style="list-style-type: none"> ・三角比 ・三角比の相互関係 ・三角比の拡張 	<ul style="list-style-type: none"> ・正弦、余弦、正接の意味を理解し、活用できる。 ・三角比の相互関係について理解し活用できる。 ・三角比の定義を拡張し鈍角の三角比が理解できる。また単位円を利用して、方程式や不等式を満たす角 を求めることができる。 		
三角形への応用	<ul style="list-style-type: none"> ・正弦定理 ・余弦定理 ・正弦定理と余弦定理の応用 ・三角形の面積 ・空間図形への応用 	<ul style="list-style-type: none"> ・正弦定理を理解し、それを使って角の大きさや辺の長さを求めることができる。 ・余弦定理を理解し、それを使って角の大きさや辺の長さを求めることができる。 ・既知の辺や角から残りの辺や角を求めることができる。 ・三角形の面積の公式を理解し、三角比の値を使って三角形の面積を求めることができる。 ・三角比を空間図形の計量に活用できる。 		
第5章 データの分析	<ul style="list-style-type: none"> ・データの整理 ・データの代表値 ・データの散らばりと四分位数 ・分散と標準偏差 ・データの相関 	<ul style="list-style-type: none"> ・データ整理のよさを認識する。 ・代表値の有用性を認識し理解する。 ・箱ひげ図を用いてデータの分布の様子を視覚的に把握することができる。 ・データの散らばり具合を数値で表す方法を理解する。またそれらの数値を求めることができる。 ・散布図や相関係数から2つの変量の相関をとらえることができる。 		

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
理科 物理基礎	1年	2単位	物理基礎 改訂版 (啓林館)	ステップアップノート物理基礎(啓林館) セミナー物理基礎(第一学習社)
科目の概要と目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
単元	学習内容		到達度目標	
第1部 物体の運動とエネルギー 第1章 物体の運動	第1節 速度 第2節 加速度 第3節 落体の運動	<ul style="list-style-type: none"> 物体の運動の基本的な表し方について、直線運動を中心に理解させる。 物体が直線上を運動する場合の加速度を理解させる。 物体が落下する際の運動の特徴および物体にはたらく力と運動の関係について理解させる。 		
第2章 力と運動	第1節 力 第2節 運動の法則 第3節 様々な力と運動	<ul style="list-style-type: none"> 物体にはたらく力のつり合いを理解させる。 運動の三法則を理解させる。 様々な力がはたらくときの物体の運動を理解させる。 		
第3章 仕事とエネルギー	第1節 仕事 第2節 運動エネルギー 第3節 位置エネルギー 第4節 力学的エネルギーの保存	<ul style="list-style-type: none"> 物理における仕事とは何かを理解させる。 運動エネルギーについて、仕事と関連づけて理解させる。 位置エネルギーについて、仕事と関連づけて理解させる。 力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連づけて理解させる。 		
第2部 熱 第1章 熱とエネルギー	第1節 熱と温度 第2節 熱量 第3節 熱の利用	<ul style="list-style-type: none"> 熱と温度について、原子や分子の熱運動という視点から理解させる。 熱とその量及びその移動について理解させる。 熱と仕事の変換について理解させる。 		
第3部 波 第1章 波の性質	第1節 波の伝わり方 第2節 波の性質	<ul style="list-style-type: none"> 波の種類と違い。波が伝わる際の媒質の変化を理解させる。 波の性質について、直線状に伝わる場合を中心に理解させる。 		
第2章 音	第1節 音波の性質 第2節 音源の振動	<ul style="list-style-type: none"> 音波の伝わり方と音の三要素を理解させる。 気柱の共鳴、弦の振動及び音波の性質を理解させる。 		
第4部 電気と磁気 第1章 静電気と電流	第1節 静電気 第2節 電流	<ul style="list-style-type: none"> 静電気と電子について理解させる。 電流、電圧、電気抵抗の相互の関係と熱作用を理解させる。 		
第2章 交流と電磁波	第1節 電磁誘導と発電機 第2節 交流と電磁波	<ul style="list-style-type: none"> 電磁誘導と発電機のしくみについて理解させる。 電流の種類と電磁波について理解させる。 		

<p>第5部 物理と私たちの生活 第1章 エネルギーとその利用</p>	<p>第1節 様々なエネルギーとその利用</p>	<p>・様々なエネルギー資源が、使いやすい形態に変換されるしくみを理解させる。</p>
<p>第2章 物理学が拓く世界</p>		<p>・「物理基礎」で学んだ事柄が、日常生活やそれを支えている科学技術と結びついていることを理解させる。</p>

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
理科 化学基礎	2年	3	化学基礎改訂版(化基 318) (啓林館)	センサー総合化学(啓林館) スクエア最新図説化学(第一学習社)
科目の概要 と目標	1. 化学が人間生活に果たしている役割を理解できる。 2. 原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解できる。 3. 化学反応の量的関係, 酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できる。 4. 探究活動を行い, 学習内容を深めるとともに, 科学的に考察する態度と能力を育成する。			
単元	学習内容	到達度目標		
序章 化学と人間生活	化学と人間生活 生活の中の化学の役割	<ul style="list-style-type: none"> 化学とその役割に関する具体的物質や社会との関連, 歴史に関心や探究心をもって意欲的に取り組むとともに, 科学的態度を身に付けている。 		
第1部 物質の構成 1章 物質の構成	純物質と混合物 物質とその成分 粒子の熱運動と物質の三態	<ul style="list-style-type: none"> 物質の分類や化学の生活の中の役割を, 積極的に探究しようとする。 物質の構造・状態・成分や性質に関心をもち, 意欲的に物質を探究しようとする。 		
2章 物質の構成 粒子	原子の構造と電子配置 イオン 元素の周期表	<ul style="list-style-type: none"> 物質の構成粒子としての原子の構造および電子配置の規則性について関心をもち, そのことが原子の性質についてどのように関連しているか, またイオンの生成について意欲的に探究しようとする。 元素の性質を電子配置に基づいて考えることに関心をもち, 元素の周期律と周期表による整理に関して意欲的に探究しようとする。 		
3章 化学結合	イオン結合 共有結合 金属結合 物質の分類と融点	<ul style="list-style-type: none"> イオン結合の仕組みについて関心をもち, イオン結晶やイオン化エネルギー等についても意欲的に探究しようとする。 分子の生成と共有結合の仕組みについて関心をもち, 配位結合, 電気陰性度, 結合の極性等についても意欲的に探究しようとする。 金属結合および結合と結晶の性質について関心をもち, 自由電子, 静電気力, 共有結合, 分子間力等を用いて意欲的に探究しようとする。 		
第2部 物質の変化 1章 物質の量と化学反応式	原子量・分子量・式量 物質の量 化学反応式と化学変化の量的関係	<ul style="list-style-type: none"> 相対質量としての原子量, 分子量, 式量を理解し, 基準となる ^{12}C や同位体の存在比の扱い等について意欲的に探究しようとする。 原子や分子の量としての物質の量について関心をもち, アボガドロ数, モル質量, 溶液の濃度等について意欲的に探究しようとする。 化学反応式の示すことについて関心をもち, 係数が示す種々の量的な関係について意欲的に探究しようとする。 		
2章 酸と塩基	酸と塩基 水の電離とpH 酸・塩基の中和と塩	<ul style="list-style-type: none"> 酸と塩基の異なる定義や性質について関心をもち, 分類に関する価数, 強弱, 具体的な酸と塩基について意欲的に探究しようとする。 水素イオン濃度の目安としてのpHについて関心をもち, その定義や具体的な数値, 身近な物質のpHについて意欲的に探究しようとする。 中和反応について関心をもち, 反応の定義や生成する塩の性質, 量的関係, 具体的な中和滴定の方法について意欲的に探究しようとする。 		
3章 酸化還元反応	酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属の酸化還元反応 酸化還元反応と人間生活	<ul style="list-style-type: none"> 酸化還元反応について関心をもち, 電子の授受や酸化数の観点で具体的な酸化剤や還元剤のはたらきについて意欲的に探究しようとする。 金属のイオン化傾向について関心をもち, 空気中での反応, 水や酸との反応について意欲的に探究しようとする。 酸化還元反応の利用としての電池や電気分解に関心をもち, 電池の分類や具体的な電池の構造, 電気分解での反応等について意欲的に探究しようとする。 		

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材		
理科・生物基礎	1	2	改訂生物基礎(生基183) (第一学習社)	標準セミナー生物基礎(第一学習社)		
科目の概要と目標	日常的な生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、観察、実験などを通して、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。					
単元	学習内容	到達度目標	評価の観点			
			a	b	c	d
第1章 生物の特徴	1 生物の多様性と共通性	生物の共通性(DNA, ATP, 細胞構造)と多様性を理解し、それが進化に基づくことを理解する。				
	2 細胞とエネルギー	生命活動を代謝という観点で捉え直す。酵素の働きを理解し、代謝での役割を考察する。				
	3 光合成と呼吸	ミトコンドリアと葉緑体で行われていることと生命活動のエネルギーとの結びつきを理解する。				
第2章 遺伝子とその働き	1 遺伝子の本体の構造	DNAの構造と、その構造的特徴が遺伝情報を担う物質として機能することを理解する。				
	2 遺伝情報の複製と分配	遺伝子が正しく受け継がれていく仕組みを説明できる。体細胞分裂の観察の技法を習得する。				
	3 遺伝情報とタンパク質の合成	塩基配列に基づいてタンパク質のアミノ酸配列が決定されることを理解する。				
第3章 生物の体内環境	1 体液とその働き	恒常性の維持に関係する体液とそれらの働き(酸素の運搬、血液凝固)について理解する。				
	2 腎臓と肝臓	腎臓の構造と尿生成のしくみとその重要性を理解する。肝臓の機能について説明できる。				
	3 体内環境の維持のしくみ	恒常性が自律神経系と内分泌系によって維持されていることを血糖濃度や体温調節を例にとって説明できる。糖尿病の原因を正確に捉えられる。				
	4 生体防御	自然免疫と獲得免疫(体液性免疫、細胞性免疫)の機構とそこにはたらく細胞の役割を正確に理解する。				
第4章 植生の多様性と分布	1 さまざまな植生	植生の特徴とその構造の成因についておおまかにとらえることができる。				
	2 植生の遷移	植生遷移の過程と遷移が起きるしくみについて土壌と光をめぐる競争という観点から理解する。				
	3 バイオームとその分布	様々なバイオームが気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解する。				
第5章 生態系とその保全	1 生態系	非生物的環境と生物の関わり、生物同士のつながりについての的確に説明できる。				
	2 物質循環とエネルギーの流れ	生態系内の物質循環のあらましを炭素、窒素を例にして説明できる。また物質循環に伴ってエネルギーが移動することを理解する。				
	3 生態系のバランス	生態系のバランスについて、そのしくみを正しく理解する。				
	4 人間活動による生態系への影響	環境問題について、その原因や人類の活動の影響について正しく理解する。				
備考	中学校理科との関連を考慮しながら、生物の基本的な概念の形成を図るとともに、生物学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成する。					

評価の観点： a (関心・意欲・態度)， b (思考・判断・表現)， c (観察・実験の技能)， d (知識・理解)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
保健体育 体育	1年	3単位	高等学校保健体育 (第一学習社)	ステップアップ高校スポーツ (大修館書店)
科目の概要と目標	<p>各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、健康・安全に留意し、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通して継続的に運動する態度や能力を育てる。</p> <p>(1) 学習規律の確立 (2) 運動の学び方の育成 (3) 体力の向上</p>			
(運動領域) 単元	学習内容	到達度目標		
(体づくり運動) 体ほぐしの運動 体力を高める運動	新体力テスト パートナーストレッチ サーキットトレーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の体に関心をもち、自己の体力や生活に応じた課題をもって運動を行い、体をほぐしたり、体力を高めたりするとともに、これらの運動を生活の中で実践できるようになる。 ・体づくり運動に対する関心や意欲を高めるとともに、互いに協力して運動ができるようになる。 		
(球技) ラグビー サッカー バスケットボール バレーボール 卓球 バドミントン テニス ソフトボール	個人技能 集団技能 審判法 ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・チームの課題や自己の能力に応じて技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようになる。 ・チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようになるとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームができるようになる。 		
(陸上競技) 走運動 跳運動	短距離走 持久走 ハードル走 走り幅跳び	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に応じて技能を高め、競技したり、記録を高めたりすることができるようになる。 ・互いに協力して練習や競技ができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習や競技ができるようになる。 		
(武道) 柔道 剣道	礼法 基本動作 応用動作 審判法 試合	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に応じて技能を高め、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができるようになる。 ・伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、練習や試合ができるようになるとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。 		
(ダンス) 現代的なリズムダンス 創作ダンス	基本ステップ 作品づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に応じた課題をもって運動を行い、感じを込めて踊ったり、みんなでたのしく踊り、交流し発表することができるようにする。 ・グループの課題や自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習の仕方や発表の仕方を工夫することができるようにする。 		
体育理論 スポーツの歴史	スポーツの歴史と文化 スポーツと現代社会	<ul style="list-style-type: none"> ・変化する現代社会におけるスポーツの意義や必要性が理解できるようになるとともに、運動にはそれぞれ歴史・文化的に形成された意義、独自の技術・戦術および規則があることを理解する。また、個および集団の状況に応じたスポーツとの関わり方や豊かなスポーツライフの設計と実践について理解する。 		

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
保健体育 体育	2年	2単位	高等学校保健体育 (第一学習社)	ステップアップ高校スポーツ (大修館書店)
科目の概要と目標	<p>各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、健康・安全に留意し、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通して継続的に運動する態度や能力を育てる。</p> <p>(1) 学習規律の確立 (2) 運動の学び方の育成 (3) 体力の向上</p>			
(各領域) 単元	学習内容		到達度目標	
(体づくり運動) 体ほぐしの運動 体力を高める運動	新体力テスト パートナーストレッチ サーキットトレーニング		<ul style="list-style-type: none"> ・自己の体に関心をもち、自己の体力や生活に応じた課題をもって運動を行い、体をほぐしたり、体力を高めたりするとともに、これらの運動を生活の中で実践できるようになる。 ・体づくり運動に対する関心や意欲を高めるとともに、互いに協力して運動ができるようになる。 	
(球技) ラグビー サッカー バスケットボール バレーボール 卓球 バドミントン テニス ソフトボール	個人技能 集団技能 審判法 ゲーム		<ul style="list-style-type: none"> ・チームの課題や自己の能力に応じて技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようになる。 ・チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようになるとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームができるようになる。 	
(陸上競技) 走運動 跳運動	短距離走 ハードル走 走り幅跳び 記録会		<ul style="list-style-type: none"> ・互いに協力して練習や競技ができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習や競技ができるようになる。 ・自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習の仕方や競技の仕方を工夫することができるようになる。また、競技会の企画や運営ができるようになる。 	
(武道) 柔道 剣道	礼法 基本動作 応用動作 審判法 試合		<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、練習や試合ができるようになるとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。 ・自己の能力に応じた技を習得するための計画的な練習の仕方や試合の仕方を工夫できるようになる。 	
(ダンス) 創作ダンス	作品づくり 発表会		<ul style="list-style-type: none"> ・グループの課題や自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習の仕方や発表の仕方を工夫することができるようにする。 ・心身の開放を図り、課題からのイメージを大切に動きづくりができるようにする。感情を込めて踊ったり、みんなと楽しく踊り、交流し発表することができるようにする。 	
(体育理論) 運動の学習方法	運動のしくみ 運動と体力の高め方		<ul style="list-style-type: none"> ・運動技能を構造的に理解するとともに、その上達過程と上達の程度を把握する方法を理解する。また、自己の能力に応じて運動技能を高める運動など、運動に親しむための学び方について理解する。 	

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
保健体育 体育	3年	3単位	高等学校保健体育 (第一学習社)	ステップアップ高校スポーツ (大修館書店)
科目の概要と目標	<p>各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、健康・安全に留意し、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通して継続的に運動する態度や能力を育てる。</p> <p>(1) 学習規律の確立 (2) 運動の学び方の育成 (3) 体力の向上</p>			
(各領域) 単元	学習内容	到達度目標		
(体づくり運動) 体ほぐしの運動 体力を高める運動	新体力テスト パートナーストレッチ サーキットトレーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動に対する関心や意欲を高めるとともに、互いに協力して運動ができるようになる。 ・自己の体力や生活に応じて、体ほぐしの行い方と体力の高め方を実践的に工夫できるようになる。 		
選択種目 ラグビー サッカー バスケットボール バレーボール 卓球 バドミントン テニス ソフトボール 柔道 剣道 ダンス 器械運動 他	個人技能 集団技能 審判法 ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・チームの課題や自己の能力に応じて技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようになる。 ・チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようになるとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームができるようになる。 ・現代的な音楽のリズムの特性を生かし、リズムに乗りながら、動きの多様性を考え、工夫し、踊ることができるようにする。 ・チームの課題や自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習の仕方やゲームの仕方を工夫することができるようになる。また、競技会の企画や運営ができるようになる。 		
(陸上競技) 走運動	短距離走 リレー	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに協力して練習や競技ができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習や競技ができるようになる。 ・自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習の仕方や競技の仕方を工夫することができるようになる。また、競技会の企画や運営ができるようになる。 		
(体育理論) 豊かなスポーツライフの ために	生活のなかのスポーツ スポーツ振興と自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後においても、自分に適した生涯にわたる豊かなスポーツライフを設計していくために、各ライフステージやライフスタイルに応じたスポーツへのかかわり方の特徴や条件があることを理解する。 ・無理なくスポーツを継続するための計画を立てることと、生涯スポーツの実践を支える環境を確保するためのスポーツ振興に向けた施策や条件、スポーツが及ぼす環境への影響に配慮することなどがあることについて理解する。 		

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
保健体育 体育	1年	1単位	高等学校保健体育 (第一学習社)	なし
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康と安全に関する基礎的知識・基本的事項を理解し総合的な認識を高める。 ・生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく思考力・判断力などの資質や能力を育成する。 ・健康で安全な生活を送るために、個々のライフスタイルやライフステージに応じた的確な意志決定や行動選択ができる。 			
単元	学習内容	到達度目標		
第1章 現代社会と健康 第1節 健康の考え方 1. わが国の健康水準と病気の傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・平均寿命からみた健康水準 ・病気の傾向の変化と新しい健康課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会を生きる、私たちが抱える健康問題を知るとともに、健康課題は時代によって変わってきていることを理解する。 		
2. 健康の考え方と私たちの課題	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の考え方と成り立ち ・健康を保持増進するために 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の考え方を知るとともに、健康の成立要因を理解する。また、健康を保持・増進するためには、正しい情報を選ぶことが重要であることを理解する。 		
3. 健康に関する環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスプロモーションとは ・健康の保持・増進のための環境とは 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスプロモーションの考え方を知り、健康を保持・増進するためには、自然環境・政策や制度、衣食住などの環境づくりが重要であることを理解する。 		
第2節 健康の増進と病気の予防 1. 生活習慣病の予防	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病とはどのような病気か ・肥満とやせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病は、日常生活と深い関係があることを知り、その予防のためには食習慣や運動、健康診断などを通じた健康的な生活が必要であることを理解する。 		
2. 食事と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・食物の栄養 ・人はなぜ食べるのだろうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種栄養素の働きを知り、健康の保持・増進にはバランスのよい食事が必要であることを理解する。また、栄養摂取以外の食事の意義についても理解する。 		
3. 運動と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・健康のための運動の役割 ・健康の保持・増進のための運動 	<ul style="list-style-type: none"> ・わが国の健康課題のうち、もっとも大きい生活習慣病と運動不足の関係について理解を深める。 		
4. 休養と睡眠	<ul style="list-style-type: none"> ・休養のとり方 ・睡眠はリズム 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちが健康を保つうえで、休養・睡眠が果たしている役割について理解するとともに、自分の普段の生活についても見直すことができる。 		
5. 喫煙と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ喫煙が健康によくないのか ・喫煙問題と未成年への対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・未成年の喫煙が禁止されている理由について、大人としてのからだが完成される年齢であることと関連づけて、人体への影響を理解し、喫煙をしないという意志決定ができるようにする。 		
6. 飲酒と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・アルコールの作用 ・飲酒による健康被害をふせぐた 	<ul style="list-style-type: none"> ・飲酒による健康被害について知り、とくに未成年者や妊娠・授乳中の女性の飲酒があたえる悪影響についての理解を深め、飲酒をしないという意志決定ができるようにする。 		
7. 薬物乱用とその予防	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用とおもな薬物・薬物乱用を防止するために 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用は、使用者にあたえる精神的・肉体的な害だけでなく、周囲の人や社会全体に対して多大な悪影響をあたえるということをしかりと理解する。 		

8. 感染症の予防	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染の成立と感染症の予防 ・ 感染症の変化と人権 	・ 感染症を予防するために、私たちが日ごろから心がけることには、どのようなものがあるかを理解する。
9. 性感染症とその予防	<ul style="list-style-type: none"> ・ 性感染症とは ・ 性感染症を予防するために 	・ 性感染症のひとつとしてのH I V感染症を知るとともにA I D SとH I V , H I V感染症の違いについて理解する。さらに、H I Vに感染した場合には、どのような治療が必要になるのか
10. がんの予防	<ul style="list-style-type: none"> ・ がんの発生とがん医療の現状 ・ がんの予防のために 	・ 何ががんを引き起こすのか、発がん物質や発がんの要因を確認し、日ごろの自分の生活に目を向ける。また、がんの治療法は、早期発見やさまざまな治療法を組みあわせることで効果を
第3節 精神の健康 1. 脳と神経の働き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脳の働き ・ からだを調整する機能 	・ 脳の構造を理解するとともに、私たちの心や体が、脳によってコントロールされていることを理解する。
2. 欲求不満と適応機制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 欲求の形成 ・ 欲求不満と耐性 	・ 各種栄養素の働きを知り、健康の保持・増進にはバランスのよい食事が必要であることを理解する。また、栄養摂取以外の食事の意義についても理解する。
3. 心身相関とストレス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心とからだのかかわり ・ からだにあらわれるストレス 	・ 人間の心と体は、きわめて密接な相関関係にある。ここでは心と体はどのようなメカニズムで影響を与えあっているかを科学的に学習し理解する。
4. ストレスへの対処	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代青年のストレス ・ ストレスへの対処 	・ 心身相関やストレス発生のしくみを学習することで、必要以上の心配や不安を取り除くことが可能となり、ストレスの適切な対処を理解する。
5. 自己実現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分さがしのあゆみ ・ 自己実現に向けて 	・ 自己実現は自分が何を求め、自分なりの目標を持ち、達成に向けて行動から始まり、こうした過程をとおして、「張り合い」や「生きがい」を感じながら生活することが大切であり、青年
第4節 交通安全 1. 交通と安全な行動	<ul style="list-style-type: none"> ・ わが国の交通事故の現状と特徴 ・ 交通事故の原因 	・ 交通事故の発生に関する要因は、人の心理・行動、車両の特性、周囲の環境など3つの要因がかかわっていることを理解して防止対策をたてる必要があることを学ぶ。また、高校
2. 交通事故と安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車両の特性に応じた安全対策・交通事故と運転者の責任 	・ 自動車や二輪車を運転することは、運転者として必要とされる資質や車両の特性に応じた対策 , 事故をおこしたときの責任、補償、保険の加入の義務が重要であることを理解し実践する。
3. 安全な社会づくりをめざして	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通安全のための対策 ・ 安全に暮らすには 	・ 交通安全に関する法改正や自動車の安全装置に対する技術の進歩が、交通事故件数の減少に影響をあたえていることを理解する。
第5節 応急手当 1. 応急手当の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応急手当とA E Dの効果 ・ 観察の手順 	・ 傷病者を実際に発見したときのために、観察の手順や方法について、実習やイメージトレーニングを通して、落ち着いた対応ができるように身につける。
2. 心肺蘇生法の実践について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心肺蘇生法 ・ 心肺蘇生法の実践方法 	・ 一次救命処置の初期段階である回復体位までの手順を理解するとともに、実際の場面を想定した実習やイメージトレーニングを繰り返し実践する。
3. 日常的な応急手当	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常おこるけがなどの手当 ・ 熱中症とその手当 	・ 日頃から応急処置に対する意識を高めておくことで、いざという時にあわてずけがに対応できるようにする。

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
保健体育 体育	2年	1単位	高等学校保健体育 (第一学習社)	なし
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康・安全に関する基礎的知識・基本的事項を理解し総合的な認識を高める。 ・自らの健康課題に気づき、その解決に向け、思考、判断できる能力を身につける。 ・生涯を通じて健康で安全な生活を送るために、個々のライフスタイルやライフステージに応じた的確な意志決定ができる。 			
単元	学習内容	到達度目標		
第2章 生涯を通じる健康 第1節 生涯の各段階における健康 1 人生の各段階の健康	<ul style="list-style-type: none"> ・人生の各段階とは ・青年期の健康の危険因子 ・健康の危険因子を避けるために 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯の各段階の特徴や健康の危険因子を理解することで、自らの身体に対する注意を深める。 ・心身ともに、そして社会的にも健康的に生活するために、生涯の各段階で注意することを知り、実践する。 		
2 思春期の心	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期の心の成長 ・男女の性意識の違い ・責任ある行動をするために 	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期の心身の発達・成長の特徴を理解し、心身共に健康に過ごすための課題を見いだす。 ・思春期の性に対する男女の意識や行動の違いを理解し、互いに尊重しながらよりよい人間関係を築いていけるようにする。 		
3 子どもから大人へ	<ul style="list-style-type: none"> ・男性のからだの発育 ・女性のからだの発育 	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期に起こる身体の変化とその仕組みを知る。 ・男性と女性のそれぞれの生殖器官についての理解を深める。 		
4 結婚は健康な家庭づくりのスタート	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚とは ・健康な結婚生活のために ・家族と健康 	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚という制度についての理解を深め、現代の平均初婚年齢を知ることで、男女の意識の変化について考えてみる。 ・結婚前のお互いの健康状態を知ることの重要性や、家族の役割について理解を深める。 		
5 新しい生命の誕生	<ul style="list-style-type: none"> ・受精から妊娠へ ・出産 ・母子の健康を守る 	<ul style="list-style-type: none"> ・受精から妊娠までの経過を胎児の成長と母胎の状況と関連させて理解できるようにする。 ・母子の健康保持のための保健サービスについて理解する。 		
6 幸せで健康な家庭づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・家族計画と避妊 ・人工妊娠中絶 ・人工授精・体外受精 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族計画についての理解を深める。 ・避妊法に関する理解を深めるとともに、人工妊娠中絶のリスクを知り、不妊治療に関する理解を深める。 		
7 一生を通じての健康	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢とは ・壮年期以降の健康課題 ・健やかな高齢社会 	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢による心身機能の変化について形態面・機能面から理解し、自己管理の大切さを理解する。 ・健やかな高齢社会を迎えるために、若い世代とともに経済や地域を支えていく社会や意識が必要であることを理解する。 		
8 リハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの意義 ・リハビリテーションの対象 ・リハビリテーションの内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションは、単に障害者への技術的な働きかけだけでなく、人間の持つ基本的権利の全面的な補償がその本質であることを知る。 		
第2節 保健医療制度および地域の保健・医療機関 1 わが国の保健医療制度	<ul style="list-style-type: none"> ・保健行政 ・医療制度 ・医療施設と医療専門機関 	<ul style="list-style-type: none"> ・国民の健康の保持増進を図る行政の活動を理解する。 ・相互扶助を精神とした皆保険制度について、その目的や制度について理解を深める。 		

2 保健・医療機関の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある保健機関 ・医療機関の利用 ・救急医療体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な医療機関としての保健所と保健センターの役割について知る。 ・現代の医療の現状と課題を理解する。
第3章 社会生活と健康 第1節 環境と健康 1 環境と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の誕生と環境・環境汚染の広がりと集中・公害対策から環境保全へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球誕生から現在に至るまでの地球環境の変化は、長い時間をかけて進むプロセスであることを理解する。 ・環境問題が特定の地域だけでなく、広範囲に広がってきていることを理解する。
2 大気と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染の原因 ・大気汚染による健康影響 ・大気汚染対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染を防ぐために設けられた、発生源対策の法律や規制を理解し、個人レベルで環境への影響を考慮しなければならないことを理解する。
3 水と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・命のみならず「水」・水の汚染・水質汚濁を防ぐために 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活の中で欠かすことのできない水の現状について知り、水の汚染によって、どのような健康被害が起こっているかを知る。
4 土と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌とは ・土壌汚染を防ぐために 	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌が私たちの生活の中で果たしている役割を知り、水を介した汚染の純化についても理解を深める。
5 産業廃棄物と汚染物質	<ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物とは ・産業廃棄物処理問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業活動によってもたらされる産業廃棄物とは何かを知る。 ・化学物質による環境汚染を防ぐためにどのような対策がとられているかについて知る。
6 地球環境と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題 ・子どもたちの将来のために 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境の問題は、直接的にその変化を体験的に実感することが困難である。科学的データに基づいた客観的な理解を深めることが大切であることを知る。
第2節 環境と食品の保健 1 環境衛生活動	<ul style="list-style-type: none"> ・上水道と下水道 ・ゴミ処理 	<ul style="list-style-type: none"> ・上下水道の整備の現状を知る。 ・ライフスタイルと、環境衛生活動が密接なつながりがあることを理解する。
2 食品衛生活動	<ul style="list-style-type: none"> ・食品による健康被害 ・食品衛生管理 ・健康被害を防ぐための行動 	<ul style="list-style-type: none"> ・食中毒や食品汚染、食品添加物など、食品が原因で起こる健康被害について理解し、日常生活の中で自分たちのできることは何かを考えさせる。
3 労働と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・労働の意味 ・労働者の健康づくり ・労働者の健康生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・労働者が安心して意欲的に労働に従事できるための仕組みはどのようになっているのか。また、労働と健康は、どのように関わり合っているのかを理解する。
第3節 労働と健康 1 労働と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・労働の意味 ・労働者の健康づくり ・労働者の健康生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・労働者の心と体の健康づくりのために行われている対策を理解し、労働者が生き甲斐を感じられる健康な生活を送るには、どうすればよいか考える。
2 職業病にならないために	<ul style="list-style-type: none"> ・職業病とは ・職業病の原因 ・職業病の予防 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業病とは、どのような種類があるのかを知り、原因とは何なのかを知る。
3 労働災害を防ぐためには	<ul style="list-style-type: none"> ・労働災害の実態 ・労働災害の原因 ・労働災害の防止 	<ul style="list-style-type: none"> 労働事故による被災者数の動向や、業種など、わが国の労働災害の実態を理解し、労働災害の発生状況や事故原因から、労働災害を防止するためには何が必要であるかを考える。
4 職場の健康・安全づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・労働者の健康・安全を守るしくみ ・職場と社会の健康・安全 ・健康・安全の意識と行動 	<ul style="list-style-type: none"> ・労働者の健康・安全を守るために、どのような法律があり、職場でどのような活動がされているかを理解させる。 ・労働者の健康・安全のために、労働者自身はどのような努力をするべきであるかを理解する。

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
芸術・音楽	1年	2単位	MOUSA 1 (教育芸術社)	The Basics of Music (教育芸術社)
科目の概要と目標	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。			
単元	学習内容	到達度目標		
身体の使い方と発声	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢や身体の使い方、呼吸法 発声法の基礎 声の音色や強弱、旋律の特徴などを生かした表現 	<ul style="list-style-type: none"> 横隔膜呼吸について理解し、姿勢の取り方や発声法などに気を付けて歌うことができる。 歌い合わせる楽しさや、ハーモニーの美しさを感じながら、意欲的に歌唱表現をすることができる。 自分なりのイメージをもって声の音色や強弱、旋律の特徴などを生かして歌うことができる。 		
歌唱表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> イタリア語やドイツ語の発音と歌唱法 曲想と歌詞の内容や楽曲の背景とのかかわり 曲想にふさわしい歌唱表現の工夫 楽曲分析による楽曲の特徴の理解と表現の工夫 独唱発表会 	<ul style="list-style-type: none"> 外国語歌曲に関心を持ち、発声や言葉の発音に留意して表現の向上に努めている。 リズムや音程、フレーズを把握し、正しく歌唱表現をすることができる。 歌声に興味を持ち、意欲的に声量や音域を伸ばそうとすることができる。 自分の声質や得意な音域を知り、自分の歌声の良さを生かした表現を工夫することができる。 歌詞の内容や曲想を感じ取り、曲の構成を分析することで、自分なりの思いや意図をもって表現の工夫をすることができる。 		
楽典の基礎と読譜力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 速度記号や強弱記号、音楽用語の意味 楽譜の読み方、書き方 	<ul style="list-style-type: none"> 音名やリズム、反復記号などを理解し、楽譜が示す通りに演奏することができる。 音楽の要素を楽譜から読みとり、主体的に楽曲理解に結びつけることができる。 発想記号や速度記号から創造的な演奏を考えることができる。 		
舞台芸術の世界	<ul style="list-style-type: none"> オペラやミュージカル等の起源と発展 表現の特徴 鑑賞作品のあらすじと音楽の特徴 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽的な要素とそれ以外の要素とのかかわりを感じ取り、興味をもって鑑賞することができる。 作曲者や演奏者による表現の特徴や多様性について知り、音楽的視野を広げ自己の感じ方や考え方を深めることができる。 		
リコーダーアンサンブルの楽しみ	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーの運指と奏法 基本練習曲 アンサンブル(二～四重奏)曲練習 リコーダーアンサンブル発表会 	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーの音色や特徴を理解し、基礎的な奏法を身に付けて演奏することができる。 アンサンブル活動を通し、互いの演奏を聴き合いながら音楽作りをする喜び味わうことができる。 各パートの役割や音の重なり方、ハーモニーを意識した表現を工夫することができる。 		
和楽器(篠笛)の響き	<ul style="list-style-type: none"> 篠笛の運指と奏法 楽譜の読み方 民謡音階の理解 練習曲 選択曲発表会 	<ul style="list-style-type: none"> 唇の当て方や呼吸法、運指等の正しい奏法を身に付け、練習曲を演奏することができる。 和楽器(篠笛)固有の表現方法や音色に関心を持ち、意欲的に味わおうとしている。 西洋と東洋によって好まれる音階や音色、拍子感、奏法などの違いを理解し、それぞれの特徴を感じることができる。 		

<p>ギターの楽しみ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の扱い方とチューニング ・左手のポジション ・右手の奏法 ・TAB 譜、ダイヤグラムの読み方 ・音階練習とメロディー奏 ・コード練習 ・弾き歌い発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の扱い方を理解し、チューナーを使用して正確にチューニングをすることができる。 ・ギターの音色や基本的な奏法の特徴に感心をもち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組んでいる。 ・TAB 譜やダイヤグラムを読み取って、簡単な曲のメロディーやコード伴奏を演奏することができる。 ・楽曲にふさわしい歌い方を考えながら、表現意図をもって、ギターと調和のとれた弾き歌いになるよう工夫している。
<p>コード・ネームの理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コードの種類と構成音 ・コード・ネーム ・楽譜上での構成音の確認 ・キーボード演奏による響きの確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・コードの仕組みを理解し、コード・ネームを覚えて正しく楽譜に書いたりキーボードで演奏したりすることができる。 ・コードの知識を生かして自分で楽曲のコードを読み取り、ギターやキーボードを演奏することができる。
<p>西洋音楽の流れ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古代ギリシャ～現代の西洋音楽史の変遷 ・主な作曲家の作品とその特徴 	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋音楽の様式や芸術論の変遷に興味をもち、各時代における音楽様式の違いや多様性、美しさを感じ取ろうとしている。 ・国や地域の歴史、社会的背景と音楽文化の関わりを理解して鑑賞することができる。

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
外国語 コミュニケーション英語	1年	3単位	Revised ELEMENT English Communication (啓林館)	Revised ELEMENT English Communication WORKBOOK STANDARD (啓林館)
科目の概要と目標	<p>英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。具体的な言語活動は以下の通り。</p> <p>ア 物事に関する照会や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。</p> <p>イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。</p> <p>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。</p> <p>エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。</p>			
単元	学習内容 文法事項	到達度目標 題材内容		
Lesson 1 Rakugo in English	<ul style="list-style-type: none"> 英語の5文型 to不定詞 動名詞 	<ul style="list-style-type: none"> かい枝さんが英語落語を始めた経緯を理解する。 かい枝さんが英語落語を通じて学んだことを理解する。 かい枝さんから高校生に向けたメッセージを理解する。 自己紹介をし、自分の好きな活動について書く。 		
Lesson 2 Christian the Lion	<ul style="list-style-type: none"> 現在完了形 受動態 分詞の限定用法 	<ul style="list-style-type: none"> ジョンとエースがクリスチャンと暮らした経緯とロンドンでの彼の生活について理解する。 クリスチャンが野生に戻るようになった経緯を理解する。 クリスチャンと旧友たちとの再会の場面をとらえる。 これまでに飼ったペットや夢のペットについて述べる。 		
Lesson 3 Predictions of the Future	<ul style="list-style-type: none"> S + V + O (疑問詞節・if節) 関係代名詞 	<ul style="list-style-type: none"> アシモフが未来を予言した内容について理解する。 クラークが未来を予言した内容について理解する。 世界の科学者たちが未来を予言した内容について理解する。 50年後の世界がどうなっているか、自分の考えを述べる。 		
Lesson 4 Twice Bombed, Twice Survived	<ul style="list-style-type: none"> S + V + C (分詞) S + V (知覚・使役動詞) + O + C (原形不定詞・分詞) 過去完了形 	<ul style="list-style-type: none"> 山口さんが最初の被爆をした経緯を理解する。 山口さんが二度目の被爆をした経緯を理解する。 山口さんが自らの経験を語った方法とその理由について理解する。 自分の人生に影響を与えた人物・本・映画について書く。 		
Lesson 5 Umami	<ul style="list-style-type: none"> 助動詞 + 受動態 要求・提案などを表す動詞の that 節における動詞の原形 関係代名詞の what 	<ul style="list-style-type: none"> うま味とはどのようなものかを理解する。 うま味の研究について理解する。 うま味が健康にどのような影響を及ぼすかを理解する。 アメリカの友人に和食について説明する手紙を書く。 		
Lesson 6 The Story of PlayPumps	<ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞の非限定用法 形式主語の it 	<ul style="list-style-type: none"> プレイポンプの計画について理解する。 プレイポンプがなぜ失敗したかを理解する。 プレイポンプの失敗から学べることを理解する。 水不足を解決するための計画について調べ、発表する。 		
Lesson 7 Biomimetics	<ul style="list-style-type: none"> 現在完了進行形 関係副詞 形式目的語の it 	<ul style="list-style-type: none"> バイオミメティクスはどのような学問か理解する。 バイオミメティクスが活用された例について理解する。 バイオミメティクスと自然保護の結びつきを理解する。 自然を守るために何をすべきかについて考えを述べる。 		

<p>Lesson 8 The Power of Presentation</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮定法過去 ・ 仮定法過去完了 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2020 年東京オリンピック招致のプレゼンテーションにニックが協力することになった経緯を理解する。 ・ 3 人のプレゼンテーションの内容について理解する。 ・ よいプレゼンテーションとはどんなものかを理解する。 ・ 自分の学校について中学生に説明する。
<p>Lesson 9 Bopsy</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮定法を含む表現 ・ seem [appear] to do 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボブシーの夢はどのようなものか理解する。 ・ ボブシーの母親、ボブ、消防士たちがボブシーのために何をしたかを理解する。 ・ ボブシーの死の間際に起こったことを理解する。 ・ 身近な人に感謝の手紙を書く。
<p>Lesson 10 Playing the Energy</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去完了進行形 ・ 進行形の受動態 ・ 分詞構文 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南アフリカの黒人と白人が親密になるために、マンデラがスポーツを利用しようとした経緯を理解する。 ・ スプリングボックスの選手たちが刑務所を訪れた際に起こったことを理解する。 ・ ラグビー・ワールドカップによって南アフリカの人々の気持ちがどのように変化したかを理解する、 ・ マンデラについて調べ、彼の偉業について感じたことを書く。

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
教科・家庭基礎	1年	2単位	新家庭基礎 2 1 (実教出版)	スーパーライブビュー (東京書籍)
科目の概要と目標	<p>1 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。</p> <p>2 学習した知識や技術を活用し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。</p> <p>3 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。</p>			
単元	学習内容	到達度目標		
1 編自立して生きる 1章 「自立する」とは?	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生き方の多様化とこれからのライフデザイン ・ 生活的自立と社会的・経済的自立 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つめ、職業選択も見通す。 ・ 固定的な性別役割分業を見直し、ワーク・ライフ・バランスについて考える。 		
2章 楽しく安全に食べる	<ul style="list-style-type: none"> ・ からだと心の健康と食生活 ・ 栄養素のはたらき ・ 食品の選択 ・ 日本の食の課題とは 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。 ・ 基本的な調理技術を学び、日常食を作れるようになる。 ・ 食生活の問題点について知り、これからの食生活について考える。 		
3章 選んで着る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 衣服の材料 ・ 衣服の管理 ・ 衣服の生産・流通・管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被服材料の特徴を理解し、組成表示・取り扱い絵表示・サイズ表示などの意味がわかる。 ・ 汚れ落ちの仕組みを理解し、被服に応じた管理ができる。 		
4章 人間らしく住む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住まい・住環境の意味 ・ ライフスタイルと間取り ・ バリアフリーと共同住宅 ・ 持続可能な街づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ライフステージにあった住居を考える。 ・ バリアフリーの考え方を理解し、身につける。 ・ 住環境における地域社会とのつながりの重要性を理解し、持続可能な住生活について考える。 		
5章 消費社会を生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報化と消費生活 ・ 契約と消費者信用 ・ 意思決定の重要性と消費者の権利 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消費行動における自分の意思決定の重要性とそのプロセスを理解する。 ・ 消費者の権利と責任について理解する。 ・ 持続可能な消費生活について考え、実践できるようにする。 		
2 編支え合って生きる 1章 多様な社会を生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の現状と課題 ・ 家族をめぐる法律 ・ 多様な生き方・パートナーシップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族・家庭に関する基礎的な法律を学び、現在の課題について知る。 ・ 多様な生き方やパートナーシップについて理解する。 		
2章 子どもと生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもをとりまく地域と社会の課題 ・ 子どもの心身の発達 ・ 親になることの意味 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの育つ力と発達段階を知る。 ・ 子どもとのふれあいをとおして、愛着の形成と親としての成長を理解する。 ・ 家族や周囲の人々の関わりの大切さを学ぶ。 		
3章支え合い共に生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者や障がい者の理解と福祉 ・ 支えあいのしくみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一生を通じた福祉や社会的支援の必要性を知る。 ・ 多様な人々のニーズ、ノーマライゼーションの理念を理解し、ユニバーサルデザインを具体的に考える。 		
ホームプロジェクト 学校家庭クラブ活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームプロジェクト ・ 学校家庭クラブ活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各領域の学びを家庭生活に生かし、ホームプロジェクトに取り組み、発表する。 ・ 施設訪問や弁当コンクールなど、家庭科の学びを校内外に発信する。 		

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
情報 社会と情報	2年	2単位	新・社会と情報 (日本文教出版)	情報のノート(日本文教出版) 情報リテラシー(技術評論社)
科目の概要と目標	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解し、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力と、情報社会に積極的に参画する態度を身に付ける。			
単元	学習内容	到達度目標		
情報の活用と表現	<ul style="list-style-type: none"> 情報とメディアの特徴 情報のデジタル化 情報の表現と伝達 	<p>情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用するために、情報の特徴とメディアの意味を理解する。</p> <p>情報のデジタル化の基礎的な知識と技術及び情報機器の特徴と役割を理解するとともに、デジタル化された情報が統合的に扱えることを理解する。</p> <p>情報を分かりやすく表現し効率的に伝達するために、情報機器や素材を適切に選択し利用する方法を習得する。</p>		
情報通信ネットワークとコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション手段の発達 情報通信ネットワークの仕組み 情報通信ネットワークの活用とコミュニケーション 	<p>コミュニケーション手段の発達をその変遷と関連付けて理解するとともに、通信サービスの特徴をコミュニケーションの形態とのかかわりで理解する。</p> <p>情報通信ネットワークの仕組みと情報セキュリティを確保するための方法を理解する。</p> <p>情報通信ネットワークの特性を踏まえ、効果的なコミュニケーションの方法を習得するとともに、情報の受信及び発信時に配慮すべき事項を理解する。</p>		
情報社会の課題と情報モラル	<ul style="list-style-type: none"> 情報化が社会に及ぼす影響と課題 情報セキュリティの確保 情報社会における法と個人の責任 	<p>情報化が社会に及ぼす影響を理解するとともに、望ましい情報社会の在り方と情報技術を適切に活用することの必要性を理解する。</p> <p>個人認証と暗号化などの技術的対策や情報セキュリティポリシーの策定など、情報セキュリティを高めるための様々な方法を理解する。</p> <p>多くの情報が公開され流通している現状を認識するとともに、情報を保護することの必要性とそのための法規及び個人の責任を理解する。</p>		
望ましい情報社会の構築	<ul style="list-style-type: none"> 社会における情報システム 情報システムと人間 情報社会における問題の解決 	<p>情報システムの種類や特徴を理解するとともに、それらが社会生活に果たす役割と及ぼす影響を理解する。</p> <p>人間にとって利用しやすい情報システムの在り方、情報通信ネットワークを活用して様々な意見を提案し集約するための方法について考える。</p> <p>情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して問題を解決する方法を習得する。</p>		

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
情報 情報の科学	2年	2単位	新・情報の科学 (日本文教出版)	情報のノート(日本文教出版) 情報リテラシー(技術評論社)
科目の概要と目標	情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解するとともに、情報と情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を習得し、情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を身に付ける。			
単元	学習内容	到達度目標		
コンピュータと情報通信ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータと情報の処理 ・情報通信ネットワークの仕組み ・情報システムの働きと提供するサービス 	<p>コンピュータにおいて、情報が処理される仕組みや表現される方法を理解する。</p> <p>情報通信ネットワークの構成要素、プロトコルの役割、情報通信の仕組み及び情報セキュリティを確保するための方法を理解する。</p> <p>情報システムとサービスについて、情報の流れや処理の仕組みと関連付けながら理解し、それらの利用の在り方や社会生活に果たす役割と及ぼす影響を理解する。</p>		
問題解決とコンピュータの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の基本的な考え方 ・問題の解決と処理手順の自動化 ・モデル化とシミュレーション 	<p>問題の発見、明確化、分析及び解決の方法を習得し、問題解決の目的や状況に応じてこれらの方法を適切に選択することの重要性を理解する。</p> <p>問題の解法をアルゴリズムを用いて表現する方法を習得し、コンピュータによる処理手順の自動実行の有用性を理解する。</p> <p>モデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解し、実際の問題解決に活用する方法を理解する。</p>		
情報の管理と問題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信ネットワークと問題解決 ・情報の蓄積・管理とデータベース ・問題解決の評価と改善 	<p>問題解決における情報通信ネットワークの活用方法を習得し、情報を共有することの有用性を理解する。</p> <p>情報を蓄積し管理・検索するためのデータベースの概念を理解し、問題解決にデータベースを活用する方法を理解する。</p> <p>問題解決の過程と結果について評価し、改善することの意義や重要性を理解する。</p>		
情報技術の進展と情報モラル	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の情報化と人間 ・情報社会の安全と情報技術 ・情報社会の発展と情報技術 	<p>社会の情報化が人間に果たす役割と及ぼす影響について理解し、情報社会を構築する上での人間の役割を考える。</p> <p>情報社会の安全とそれを支える情報技術の活用を理解し、情報社会の安全性を高めるために個人が果たす役割と責任を考える。</p> <p>情報技術の進展が社会に果たす役割と及ぼす影響を理解し、情報技術を社会の発展に役立てる方法を考える。</p>		